



## プレクルーズトレーニング実施報告書

提出年月日： 2017 年 8 月 24 日

氏名：尾張聡子

所属機関・職名：千葉大学 大学院 博士後期課程

IODP 研究航海番号 および航海名	Exp.372 Creeping Gas Hydrate Slides and Hikurangi LWD
乗船時の役割	Inorganic geochemist
出張期間（移動含む）	2017 年 8 月 22 日 ～ 2017 年 8 月 23 日
実施場所	高知コアセンター
実施による成果と今後の計画 <p>今回のプレクルーズトレーニングは Exp. 372/375 の joint pre-cruise training として行った。二日間のトレーニングで主に船上での生活や研究についての座学，コアや薄片の観察，高知コアセンターの見学，Exp372/375 の Proposal や Scientific Prospectus の内容についてのディスカッション，各研究者の研究プランやサンプルリクエストの内容の紹介を行った。船上生活の説明では，船の上で頻繁に使用される専門用語や，コアフロー，様々な分野の研究者が船上で行う分析についても聞くことができ，船上での全体の流れをつかむことができた。特に船上で頻繁に使用される省略された用語などを知ることができ，とてもためになった。コアの観察では事前にリクエストした ODP leg135 の #2R (sec. 3)，#4R (sec. 1)，#18R (sec. 1)，#21R(sec. 3)，#35R (sec. 1)，#36R (sec. 3)，#39R (sec. 2)，#47R (sec. 2)，#51R (sec. 3)，#54R (sec. 3)を観察した。コア観察では Preliminary report のコア記載，写真と比較しながら，記載がどのようにされているか，各自の意見を交えてディスカッションを行った。コアセンター内の見学ではコアが保管されている冷蔵庫や，ジオケミラボ，実際行われていたサンプリングパーティの見学をさせてもらい様々な道具の使用法や，分析機器の使用法等を聞くことができた。Proposal や Scientific Prospectus の内容についてのディスカッションでは，自分の分野に限らず，航海の全体の内容について他の研究者がどのような視点で，どのようなことに興味を持っているのかを知ることができ，さらに理解を深めることができた。今後は掘削サイト周辺の地球化学の知識を深め，今年の 11 月の航海に備える予定である。</p>	
備考	

## 注意事項

1. 当報告書は出張終了後 2 週間以内に海洋研究開発機構研究推進部内 IODP/J-DESC 旅費サポートに E-mail (travel@j-desc.org)でご提出ください。



## プレクルーズトレーニング実施報告書

提出年月日： 2017 年 8 月 28 日

氏名：高下裕章

所属機関・職名：東京大学 大学院生（博士課程）

IODP 研究航海番号 および航海名	372 Creeping Gas Hydrate Slides and Hikurangi LWD
乗船時の役割	Physical Properties Specialist/Downhole Measurements (例 Sedimentologist)
出張期間 (移動含む)	2017 年 8 月 21 日 ~ 2017 年 8 月 23 日
実施場所	高知コアセンター
実施による成果と今後の計画	
<p>・実施による成果</p> <p>今回のプレクルーズトレーニングでは、まずグプタ氏・久光氏による丁寧な座学が実施された。座学では IODP の概要、実際の乗船研究、高知コアセンター内の施設などについて説明をいただいた。自分は初めて IODP の研究航海に参加するため、大変勉強になることが多く、特に研究生活に関する事項は実際に乗船された方でないとうからないことが多かったため、実際の準備にあたって貴重な理解が得られた。ラボで講習もしていただき、ODP135 における岩石コアを見ながら、実際のサンプリングの手順などについて学ぶことができた。</p> <p>372/375 航海は別の目的の航海であるが、掘削サイトが同じであるため、両乗船者の情報共有が必要であった。今回のトレーニングにおいては、その情報共有のための時間を作っていただいたため、両航海におけるそれぞれの乗船研究の目的および概要について理解をすることができ、また自分の研究計画の問題点についても理解を得ることができた。</p> <p>・今後の計画</p> <p>今回のプレクルーズトレーニングにおける情報共有で得られた自分の研究計画の問題点に対する修正のため、先行研究のレビューをさらに行う。加えて、どのような機器を使って操作を行うか理解できたため、その機器の具体的な知識や手順など、航海までに技術的な不足を補う予定である。</p>	
備考	

### 注意事項

1. 当報告書は出張終了後 2 週間以内に海洋研究開発機構研究推進部内 IODP/J-DESC 旅費サポートに E-mail (travel@j-desc.org) でご提出ください。



## Report on Pre-cruise Training

Reporting date (Day/Month/Year): 2017/8/25

Name: Hung-Yu Wu

Affiliation and job title: JAMSTEC/Technical research scientist

IODP Expedition Number and Name	Exp. 372
Responsibility in IODP Expedition	Physical properties/Downhole measurements (Ex. Sedimentologist)
Training Period (including transportation)	From (Day/Month/Year) 2017/08/22 to (Day/Month/Year) 2017/08/23
Venue	Kochi Core Center, JAMSTEC, JAPAN

### Result of the training and future plan

The first day, we take the lectures about IODP history, core-handling flow, naming rules and onboard measurements. We also realize the IODP database and how to operate on line. Then we discuss the living and research environments on JR and understand the policies working on the JR and its security issues.

The following day, we switch to the sampling room and check the core samples collected from Leg 135, where is the drilling site most close to the Hikurangi. We observed the core samples and learned how to sample from the core in different size and volume.

In the last session, we presented our own research plan and had wide discussion of onboarding living and research. We decided the cooperation in each own research plan even the post-cruise research. It is very essential meeting for the researchers to discuss their need and possible difficulties before onboarding. Because this is the first time for the jointed pre-cruises meeting, we have the agreement for the information exchanging and sharing in the future.

### Notes

#### Note:

1. The report should be submitted to the J-DESC/IODP Travel Support through email (travel@j-desc.org) **within two weeks after the training.**